

晩秋から初冬の季節、西宮から新川へ先を争い一番乗りの「惣一番」を競う江戸の風物だった新酒番船競争を偲び、新川で樽酒祭を開催！

新川大神宮ご祈禱済み二斗樽量り売り全社720ml税込み1,800円

〈出展蔵元〉

- | | | | |
|--------------|-----|------------|-----|
| ① 白鶴酒造株式会社 | 白鶴 | ④ 日本盛株式会社 | 日本盛 |
| ② 辰馬本家酒造株式会社 | 白鹿 | ⑤ 大関株式会社 | 大関 |
| ③ 沢の鶴株式会社 | 沢の鶴 | ⑥ 小西酒造株式会社 | 白雪 |

〔開催日〕 令和3年12月27日(月)当日限り 〔時間〕 10:30~18:00

※お酒がなくなり次第終了となりますので予めご了承ください。



〔新川大神宮〕新川は、江戸で人気だった灘・伏見で造られ江戸に運ばれる「下り酒」の荷揚げ地として繁栄しました。晩秋から初冬に、灘や伏見の蔵元で新酒ができあがると、樽詰めされ、樽廻船に積み込まれると15艘程の船団が西宮から出帆、一番乗りの「惣一番」目指し、約58時間かけ、酒問屋が集まる新川を目指しました。この「番船競争」は江戸の町人文化を彩るイベントのひとつとして人気があり、広く知られていました。

その新川で、酒問屋の守護神として崇敬を集めてきたのが「新川大神宮」です。新川大神宮の由来は、慶光院周清上人が1625（寛永2）年、徳川2代将軍から江戸代官町に屋敷を賜り、邸内に伊勢両宮（内宮・外宮）の遥拝所を設けられたのにはじまります。その後、1657（明暦3年）年の明暦大火による類焼で替地を当地に賜り社殿が造営され、以来、実に350年以上を経た現在まで「新川大神宮」としてこの地の産土神として祀られてきました。

太平洋戦争末期の昭和20（1945）年3月には戦災により社殿は灰燼に帰し、その後新川も戦災焦土で埋め立てられ付近は旧態を失いましたが、1952（昭和27）年、酒問屋の有志一同が社殿の再建を発起し、同年10月17日に竣工遷宮、今日に至っております。

〈所在地〉

〒104-0033
東京都中央区新川一丁目8番17号

〈公式サイト〉

【公式】新川大神宮ホームページ
<http://shinkawadaijingu.or.jp/>

〈お問合せ〉

新川大神宮樽酒祭事務局（株式会社加島屋内）
電話03-3552-6611 担当広岡迄

